

日本体育・スポーツ・健康学会 体育・スポーツ政策専門領域
発足記念研究会（シンポジウム） 開催要項

<趣旨>

日本のスポーツ界にとって大きな節目となる東京オリンピック・パラリンピック（東京 2020）が終了した。競技面では過去最多のメダルを獲得したが、大会運営面でもまた、多くの問題が表面化し課題として残された。開閉会式の会場となった新国立競技場の運営費は年間 24 億円とも言われるが、その運営については未定の状態である。国としてのスポーツ関連予算は過去 20 年に渡って増加傾向にあったが、今後は削減されることが見込まれる。東京 2020 の開催をきっかけに日本に住む人々のスポーツライフに変容があったのか、ポストコロナ社会における健康やスポーツの意義とはどのようなものか、各種スポーツ関連団体のガバナンスに改善はみられたのか等の論点を含めて、東京 2020 を多面的・包括的に評価することが重要であろう。

このような状況下で「体育・スポーツ政策専門領域」は発足した。本専門領域は諸近隣領域や学会との共同や連携を強く意図しており、学際的・横断的な場として多分野が関われる場を提供し、その中で体育・スポーツ領域における政策に関する“ハブ”となることを希求している。その記念すべき初回研究会では、いくつかの領域を代表する方々にそれぞれの領域の視点から体育・スポーツ政策研究をふり返り、また課題について論じていただく。これによって体育・スポーツ政策研究の全体像を把握する一助としたい。

開催日時：

2021 年 12 月 19 日（日） 13:00～15:35

シンポジウムテーマ：「体育・スポーツ政策研究のこれまでとこれから」

タイムテーブル：

- 13:00～13:05 開会のあいさつ 齋藤健司（筑波大学／本専門領域代表）
- 13:05～13:10 趣旨説明 高峰修（明治大学）
- 13:10～13:40 「『総合』体育・スポーツ政策科学研究の確立に向けての一視点」
横山勝彦（同志社大学／日本体育・スポーツ政策学会 会長）
- 13:40～14:10 「体育・スポーツ社会学からみた政策専門領域への期待」
菊幸一（筑波大学／日本体育・スポーツ・健康学会、
日本スポーツ社会学会 会長）
- 14:10～14:40 「スポーツ・ジェンダー学からみた政策専門領域への期待」
來田享子（中京大学／日本スポーツとジェンダー学会 会長、
日本体育・スポーツ・健康学会 副会長）
- 14:40～15:10 シンポジストディスカッション
- 15:10～15:30 質疑応答・まとめ
- 15:30～15:35 閉会のあいさつ 松田恵示（東京学芸大学／本専門領域副代表）

全体進行：松畑尚子（龍谷大学）

シンポジウム進行：高峰修（明治大学）

形式：

オンラインでのシンポジウム形式（ミーティング形式）

申込方法：

参加を希望される方は、12月15日（水）までに以下のリンクからお申し込みください。参加費は無料のため、参加登録はお申し込み順に最大300名までとさせていただきます。

お申し込みいただいた方に、前日までに入室用のZoomリンクをお送りします。

<https://forms.gle/cUeHMnTGeyYiDtgx8>



以上